

透析だより 10月号

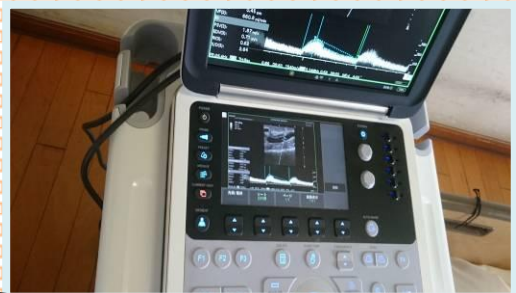
当院のシャント管理:血管エコー



このたび導入された
FUJIFILM 社 FC1



ポータブルの超音波画像診断装置なので、機械の移動が容易なため、患者さんの病室に訪問してベッドサイドでの血管エコー検査も行えます。



血流状態の確認や、
血流量、血管抵抗指数の測定による
シャント血流機能評価を行っています。

血管エコー検査書

検査日時: 16/11/7

検査目的	シャント機能評価	
検査部位	右腕 橈骨動脈-橈骨静脈シャント	
検査結果	最大血流速度 (cm/s): 61 平均血流速度 (cm/s): 12.1 血管抵抗指数: 0.8 血流量 (ml/min): 1178 血管口径 (mm): 8	
検査者	ME	

検査結果: 血管抵抗指数 0.8 (正常値: 0.5-1.0)

検査部位: 右腕 橈骨動脈-橈骨静脈シャント

検査結果: 最大血流速度 (cm/s) 61, 平均血流速度 (cm/s) 12.1, 血管抵抗指数 0.8, 血流量 (ml/min) 1178, 血管口径 (mm) 8

検査者: ME

当院では ME が中心となって VA 管理を行っています。
以前 (透析だより 2017 年 2 月号) 取り上げた STS による理学所見 (視診・聴診・触診) でのシャント管理は重要ですが、スタッフそれぞれの個人差もあり、数値的な基準を示すことが困難です。
そのため、当院では患者さんのシャントの状態に合わせて定期的なエコーによるシャント機能の評価を実施しています。
エコー検査の結果を踏まえて、穿刺を行うスタッフに狭窄部位などシャント状態のアドバイスをを行うほか、シャント機能が低下している場合は血流機能評価と理学的所見を含めて Dr に報告しています。

シャント: 血液透析を行うために静脈を動脈に縫い合わせてつなぐこと。近年はバスキュラー・アクセス (VA) と呼ぶことが多い。